



しみす つよし
燕市生活環境課 課長 清水 強

市の今後の取り組みを聞きました。

家庭ごみの削減と産業界の自然エネルギー利用

市として、2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指す、「ゼロカーボンシティ宣言」を表明しました。

燕市の二酸化炭素排出量は部門別で、家庭部門からは14%、運輸部門からは16%、産業部門は70%を占めています。そこで、これまでの各家庭からの焼却ごみの削減を目的とする、再資源化や再利用

部門別に新たな取り組みを始める

家庭部門へは、ごみの減量化や再利用化につなげるため、不用品のフリーマーケットや学用品のリユース会を企

画する「MONO2リユース事業」や、節電につながる「グリーンカーテン用の植物種」を無償で差し上げる取り組みを始めます。また、産業部門へは、企業の規模や業種の条件はありますが、「自家消費型太陽光発電利用促進補助事業」を新設し、事業者が再生利用の推進をいただけた取り組みを開始します。

自家消費型太陽光発電利用促進補助事業の詳細はこちら▼



子どもたちと植物を育てて意味を共有

ごみ拾いや節電など一人で行うことはもちろん、それ以外にまちづくり協議会をはじめとする地域の人たちや子

一人ひとりが地球温暖化を意識した行動を起こしていくために、今起きている地球規模の環境変化や影響を「他人事」ではなく「自分事」として捉え、理解を深めていくことが重要だと思っています。



近嵐さんが、地域の人たちと育てているフイセンとチューリップ(場所: 吉田小学校花壇)

子どもたち、学校関係者と一緒に「花などの植物を育てる」ことに取り組んでいます。緑を増やすことはCO2の吸収量を増やすことにもなりますし、地域コミュニティが形成され、そこに参加した若者や子どもたちが理解をすることで、環境活動の継承にもつながると思っています。この活動を今後も続けることで、「ゼロカーボンアクション」に取り組む人が一人でも増えたらうれしいです。



実践していることは、日頃の業務においてペーパーレス化や節電などをあたりまえに実施することで、社員一人ひとりの環境問題に対する意識改革を行っています。そのほか、太陽光パネルの設置やLED照明への変更、工場の天井に遮熱シートを施工し、冷暖房器具の使用を抑えるなど、エネルギーの節約・転換も実施しています。



▲導入されたLED照明と遮熱シート

これからは、インフラ整備の状況にもよりますが、営業用車両を電気自動車へ入れ替えたり、工場に使用する電力を自家発電・自家消費に転換するなどしたいと考えています。

カーボンニュートラルの実現には、地域が一体となって取り組んでいかなければいけません。太陽光発電の普及を推進することで、ゼロカーボンの実現に貢献していきたいと思っています。

自分事に置き換えることがからはじめる

私は、「自分ができることを続けていく」をモットーに取り組んでいます。マイバツクの持参、節水、ごみの分別、地産地消などを意識していますが、地球温暖化対策はとも幅が広くそれぞれに理由があります。「ごみは分別しましょう」とか「節電をしましょう」など他人から行動を促さ

環境保全活動

エネルギーを節約・転換

4R (リデュース・リユース・リサイクル・リフューズ)

ちかあらし きゅうえい
燕市環境審議会 元会長 近嵐 久榮さん

#わたしのゼロカーボンアクション

市民や事業所が実施している取り組みを紹介します。

エネルギーの節約・転換を実践

エネルギーを節約・転換

太陽光パネル・省エネ住宅

CO2の少ない交通手段

電力の「地産地消」を進める

スワロー工業株式会社 代表取締役社長 はらだ まさし 原田 雅史さん

電力の「地産地消」を進める

SDGsの目標達成のために会社ができることは何かと考えていたときに、太陽光発電関連の事業を行っていることから、カーボンニュートラルの実現に向けて取り組むことにしました。企業がカーボンニュートラルに取り組むことは、SDGsの目標の「エネルギーをみんなに。そして